

## 20230828 「化学肥料をやめたら・・・スリランカが行った国家的実験」

化学肥料も農薬も使わず、堆肥などで育てる農産物を「有機野菜」とか「無農薬野菜」などと、いいます。これはより自然に近く、食べる消費者の健康にもよいとされています。ですから、できる限り、脱農薬、脱化学肥料をすすめていくことが望ましいのですが、現実はそうなっていません。

この現実には、国家として挑戦した国があります。インド洋に浮かぶ島国、スリランカです。人口約 2000 万人で、面積は北海道よりやや狭い広さです。

この国では、1960 年代から化学肥料を購入する農家に補助金を与えてきました。この政策により、米やその他の作物の収量がこれまでの 2 倍以上になりました。農業生産性の高まりによって余剰労働力ができ、都市化も進みました。そうした中で、化学肥料の輸入とそれに伴う補助金は増え続け、国家財政を圧迫するようになりました。

そうした中、2019 年、「10 年間でスリランカの農業を全て有機農業に移行する」と公約を掲げたゴタバヤ・ラジャバクサが大統領に当選しました。大統領就任から数ヶ月後、コロナ禍により観光業が大打撃をこうむります。観光業はこの国の外貨獲得源の約半分を占めており、政府の予算に大きな打撃を与えました。そこで、2021 年 4 月に、大統領は国内の農業全てを有機農業に転換する政策を一気に推進します。これは、当初の公約実現であるとともに、肥料購入費や補助金カットによる支出削減というメリットもありました。

しかし、そもそも化学肥料の代わりとなる有機肥料の生産が追い付いていない状況の中で政策を推進した結果、主食のコメの収穫が 20%も減少し、価格が高騰した上に、緊急輸入をせざるを得なくなってしまいました。また、主要な輸出品である茶、ゴム、ココナッツの収穫量も大幅に減少し、早くも同年 11 月には化学肥料の使用を部分的に認め、2022 年 2 月には有機農業への転換そのものを停止しました。結果的に、政府は減収で苦しむ農家に直接補償金を支払うなど、かえって高くつく結果となってしまいました。そのような中でも、食糧不足とパンデミックによる観光業の不振は続き、そこにロシアのウクライナ侵攻に伴う物価上昇、通貨下落が追い打ちをかけます。2022 年 7 月に、遂に国の「破産」が宣言されます。大規模な政府に対する抗議デモが勃発する中、ラジャバクサ大統領は国外に脱出をしてしまいました。わずか 1 年 4 か月の間のことでした。このわずかの期間に、国家の破産、大統領の国外脱出（逃亡？）という前代未聞の事態となったのです。

そもそも、人類は 200 年前まで、人口の 90%が農業に従事しないと、人々を養うのに必要な食料の生産ができませんでした。それが、劇的に変わるのは、20 世紀初頭に開発されたアンモニアの合成技術とそれに伴う化学肥料の製造です。化学肥料は、世界中の農業収量を飛躍的に増大させました。80 億人とも言われる世界の人口は、

化学肥料によって支えられていると言っても過言でないのが実態です。今や、化学肥料を使わない農業を行っているのは、化学肥料さえ買えない最貧国の農家か、最も裕福な先進国の農家です。

今回のスリランカのように国ごと有機農業に切り替える場合、有機肥料の生産がポイントになりますが、そのための十分な土地や施設が必要で、家畜の糞尿の生産とそのための土地の確保は、それに伴う環境破壊も視野に入れる必要があります。かつて、農村は山や多様な植物の森をもっていました。その森は、果実やキノコ、野生動物、木材（燃料、建材等）などの自然の恵みを人に与えてくれるだけでなく、落ち葉による腐葉土を育ててくれる大切な場所でした。その森も杉やヒノキに全て植え変わり、かつての眺めは一変しています。それどころか、化学肥料によってわざわざ森に腐葉土をとりに行く必要がなくなり、流通の発展により物が簡単に手に入るようになって「森」の価値は見失われました。切り開かれ、宅地化もされました。

私達はこのまま、これまで通り農薬や化学肥料を使い続けるしかないのでしょうか。化学肥料を使い続けるデメリットは、かなり以前から指摘されてきました。これまで通りを続けることは、地球規模で持続可能なことなのでしょうか。スリランカの国家的な実験は失敗におわりました。しかし、スリランカの農家の中に、もっとうまくやる方法があったのではないかと有機農業への再挑戦を志す動きもあると聞いています。EUは、長年にわたって持続可能な農業への移行を約束しています。土壌微生物の研究と見直しも近年急速に進んでいます。未来志向の農業を消費者である私達も関心をもって見守っていきたいと思います。そして、教育現場でもこれまで通りの農業を教えるだけでなく、これからの農業を共に考えていく学びをすすめる必要があると考えます。